

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	福井県民生活協同組合	代表者	竹生 正人	法人・事業所の特徴	郊外の田園に立地しているため、自然豊かであり、季節感を感じることができます。当法人の福祉理念「あなたらしさいつまでも」を念頭に利用者の過去の生活歴や嗜好などのアセスメントを活かした活動提供、及び、自立支援に力を入れています。 併設の認知症対応デイサービスとグループホーム合同で、外出行事・趣味の会活動を通して交流しており、ニーズに合わせて、「デイサービス→小規模多機能→グループホーム」と移行がしやすい環境です。また、地域とのつながりにおいては、地域住民のご協力を得て畑を借り一緒に農作業、地域行事やサロンに参加、また、年1回の感謝祭、毎月サロンを開催し、地域住民が気軽に施設に足を運んでいただき、職員や利用者との馴染みの関係作りを目指しています。
事業所名	県民せいきょう 小規模多機能ホーム 岡保きらめきハウス	管理者	植田 智和		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援C	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	0人	0人	3人	0人	1人	1人	0人	2人	0人	7人

項 目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 自己評価の確認	・1日2回のミーティングの時間を確実に確保し、情報交換や共有がしっかり出来るよう職員全体で取り組んでいく。 ・体制が厳しい際は、時間を短縮し、確実に実施していく。	(取組み) ミーティング用紙を作成し情報共有をしやすいとした。 (結果) 情報の共有は前回と比べ改善したが、1日2回の時間確保は出来ない日もあった。情報の内容を確認できたかを、各職員にチェックをする項目を作り、統一したケアに努める事ができた。	・ミーティングをする際に内容を確実に伝えるため機会を多く持つことは有効であるし、また情報発信する担当者を回毎に変えることでより真剣性が増すのではと思われる。 ・シフトで動く現場はどこも全員が顔を合わせる機会がないので同じ悩みを抱えている。	・本人のニーズとニードの違いを見極め、家族のニードも大切にしながら、本人のニーズを考えたアセスメントを強化していき、職員全員で実施していくケアの統一ができるよう、情報の共有、ケアの進捗情報の見える化により利用者のニーズを叶える事ができるチーム作りをしていく。
B. 事業所のしつらえ・環境	・事務員配置により、事務所不在を減らしていく。 ・玄関に案内版を設置し、各部門へつながるインターフォンを設置したが、今後は事務所入り口にも、不在の案内及び、部門へつながるインターフォンの設置を検討する。	(取組み) 事務員の配置や、不在案内カードの作成を実施しました。 (結果) 事務員を配置する事で来所された方への対応も、以前よりは改善された。	・清潔感・季節感があって、とても良いと思います。 ・趣味の会を実施する事で、地域住民も出入りがしやすくなっている。 ・施設のイメージは入りにくそうと思っていたが、お付き合いする中でそのイメージがなくなった。	・たくさんの地域住民が、気軽に出入りできるよう、趣味の会やサロンの案内方法の工夫をしていく。 ・事務所に職員が不在に極力ならないシフト管理と、不在時でも来客者が困らない案内を実施していく。

C. 事業所と地域のかかわり	・特定の職員でなく、全職員がサロンや趣味の会等を通して、地域住民と交流できるよう、年間計画を立てて、参加の仕組みをつくる。 ・岡保きらめきで、介護初め、困りごとの相談ができる旨の案内を行っていく。 ・利用者の活動として、地域へ出向くことを推進していく。近所への散歩等、できることから実施していく。	（取組み） 職員が、地域住民と、交流ができるよう年間計画を作成し、きらめき祭などに参加できる環境作りを実施した。 （結果） サロンや趣味の会では、計画を立てる事で、職員が交流できる機会ができた。また、祭りなどの参加や、散歩などで、気軽に地域住民と会話できるようになった。しかし、困りごとの相談に関しては認知度が低く、課題が残った。	・地域の行事に積極的に参加され、地域との一体感を双方が感じ取れる様子が伺える。 ・地域住民は、介護に関する相談先は、きらめきよりも包括のイメージが強い。介護に関する必要性を感じていない若い世代にアプローチをしていくとよいと思う。 ・畑作業を地域住民と利用者や職員が共同する事で親近感も沸いている。昨年から地域との関わりが深くなったと感じる。	・介護保険を理解できる講座を開催し、気軽に相談できる関係性を築いていく。 ・地域住民との信頼関係の構築、輪が更に広がっていけるよう、畑作業、奉仕活動、イベント等に積極的に参加していく。 ・ミーティングの中で情報を共有し、同じ意識のもとで携わっているよう努める。
D. 地域に出向いて本人の暮らしをささえる取組み	・ご利用者のこれまでの地域との関わりをアセスメントし直し、できる支援があれば、積極的に取り入れていく。 ・岡保地区への、お出かけを増やしていく。その中で、地域の住民との交流をはかっている。 ・運営推進会議に、家族の参加を依頼していく。参加されやすいよう開催曜日・時間の変更も検討する。	（取組み） 地域住民との交流を図れる環境作りの計画や運営推進会議へのご家族参加の声掛けを行った。 （結果） 利用者本人が住んでいる地域との関わりはほとんどできていない。地域住民と、畑作業・きらめき祭りを通した交流は以前より発展した。運営推進会議にご家族様代表が参加いただけたが、一部に留まっている。	・運営推進会議にご家族様代表も参加されるようになり良かったと思う。 ・ご本人やご家族の希望を取り入れての外出ができたのはすばらしいと思う。 ・地域への行事も自然になじんでいる。	・利用者が「〇〇に行きたい」「〇〇したい」という思いを普段の会話から聞き取りし、それを具体化し実現していく。 ・利用者が住んでいる地域との連携ができるよう体制の形成に努める。 ・事業所周辺の地域住民の方々の協力を得ながら、社会参加を継続して行っていく。
E. 運営推進会議を活かした取組み	・地域と連携し、地域の課題があれば、協議を行っていく。 ・運営推進会議の意見を、職員・ご家族に報告していく。 ・運営推進会議に合わせ、利用者の活動の場を見てもらい、一緒にレクリエーションに参加いただくことも検討する。	（取組み） 利用者の活動の場を、見てもらうなど、活動に参加していただいた。 （結果） 利用者の活動を地域住民と一緒に実施できた。運営推進会議で出された意見の、欠席された家族への報告は、確立できておらず今後の課題となった。	・運営推進会議のスタイルは定着したようである。そこで出た地域課題を包括支援センターと共有して地域ケア会議を開催できるといいと思う。 ・畑作業など地域住民と一緒に取り組まれている。 ・地域で心配な方等の事例検討は実施できていない。	・事業所の課題だけではなく、地域課題を定期的に論議し、包括支援センターと共有して地域ケア会議を開催する事で問題解決にあたる。 ・運営推進会議の意見を、ご家族に報告できる資料を作成し、2ヶ月毎に配布する事を検討する。
F. 事業所の防災・災害対策	・自然災害時の訓練も今後の訓練に取り入れていく。 ・グループホームで、夜間想定防火訓練を実施したが、小規模多機能でも同様の訓練を実施する。 ・福祉避難所の一つの場所として、町内に呼びかる事や、備蓄を検討する。	（取組み） 小規模多機能でも夜間想定防火訓練の実施や備蓄を検討していく。 （結果） 夜間想定防火訓練を9月に実施したが、日頃からの対応方法の共有ができておらず、対応の遅れが目立つ結果であった。福祉避難所としての周知も、一部の地域住民しか知られていない状況。	・地域との協力体制も確立し、避難訓練も回数を重ねるにつれ課題が明確化されてきている。 ・災害時は頼りになると思っている。災害時の対処法やノウハウも持っていると思う。 ・夜間に火災が起こった場合、職員が一人の時の地域への対応（連絡、初期消火、避難）が心配。	・年に2回の災害訓練だけでは、実際に災害が起こった時の対応が遅れてしまうので、毎月実施する小規模会議で、あらゆる災害時の対応を会議項目に取り入れていく。 ・福祉避難所の一つの場所として、地域住民が全員わかるように、チラシの配布などを検討していく。